

# 短期予報解説資料 2017年3月22日03時40分発表

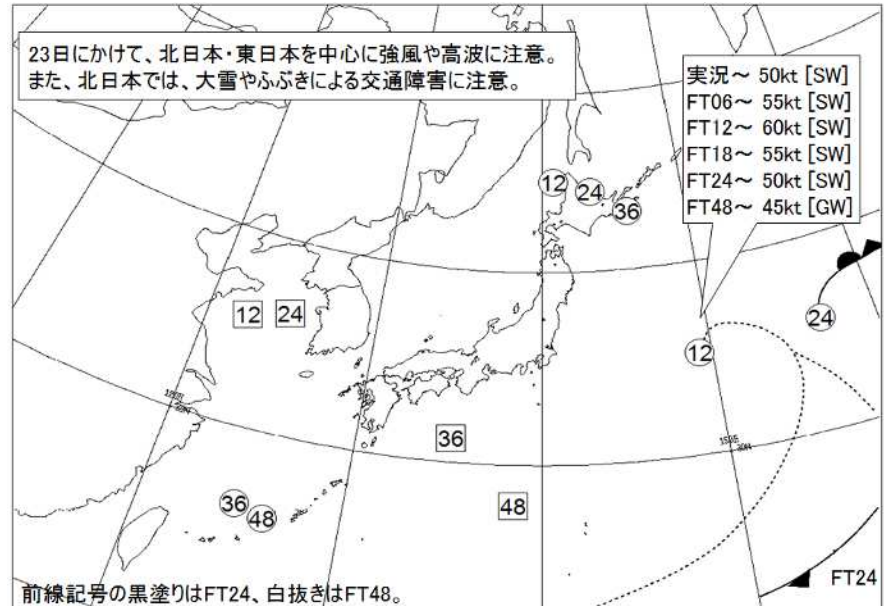
気象庁 予報部

## 1. 実況上の着目点

① 低気圧が関東の東にあって急速に発達しながら東北東進している。最大風速は50kt[SW]級。

② 500hPa トラフが日本海北部から日本海中部を東進している。地上では、低気圧が北海道の西にあってゆっくり東進しており、北日本は関東の東の低気圧との間で気圧の谷となっている。北日本中心に降水を観測しており、北海道では降雪が3時間に10から15cmの所がある。

③ シベリア付近には500hPaで-39℃以下の寒気を伴う寒冷渦がゆっくり南下している。



## 主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、さらに発達しながら東北東へ進み、日本の東で最大風速50～60kt[SW]級の勢力を23日にかけて維持する。一方、高気圧が大陸から張り出し、北日本から東日本は気圧の傾きが大きい状態が続く。23日にかけて、北日本・東日本を中心に強風や高波に注意。

② 1項②の低気圧は、23日にかけて、日本海北部から北海道付近をゆっくり南東進する。また1項③の寒冷渦が23日にかけてアムール川下流から日本海北部へ南東進し、北日本には500hPaで22日は-33℃以下、23日には-36℃以下の寒気が流入する。北日本では、大雪やふぶきによる交通障害に注意。

③ 日本付近は下層寒気移流が続き、850hPaで-6℃以下の寒気が、23日にかけて北日本から北陸付近まで南下する。22日夜から23日はじめは、寒気移流の強まりに伴い、北陸や東北日本海側を中心に大気の状態が不安定になる。落雷や突風に注意。

④ 23日朝には500hPa5760m付近のトラフに対応して低気圧が東シナ海で発生し、降水域が奄美地方・沖縄地方に広がる見込み。低気圧に向かって850hPaの相当温位330K前後の下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定になる。落雷や突風、短時間強雨に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場は最新GSMを基本とし、降水の分布・強度・種別や風はMSMを参考にする。

## 4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

① 大雨・大雪ポテンシャル(06時からの24時間): [雨]高い所(100mm以上)はない。[雪]北海道30cm、北陸・関東甲信15cm、東北10cm。

② 波浪(明日まで): 伊豆諸島4m、その他、広い範囲で3m。

## 5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はありません。